

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

戦後の冷戦下でアメリカは、西側世界の盟主として、社会主義体制への軍事的・経済的な対抗をおこなってきました。たいてい、西ヨーロッパは、E E C / E C / E U と地域統合を深化させてきました。

とくに、アメリカは、対ソ軍事的優位を維持するために軍事技術開発に専念し、日独がアメリカを経済的に支えました。

1991年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終結するとアメリカは、ドル体制の維持のために、資産バブルなどによる経済成長を目指しました。ヨーロッパでは、ユーロを導入してアメリカに対抗しています。

2017年1月のトランプ政権の登場でアメリカ経済も大きく変容しつつあります。この変容を踏まえて、戦後のドイツ経済について日本との比較で詳しく検討します。

中小証券への経済・証券市場予測などの情報を提供している日本証券経済研究所における実務経験に基づいて、欧米経済について分析手法について詳しく講義します。

授業計画

第 1 回	講義の概要
第 2 回	戦後のアメリカの経済と市場原理主義
第 3 回	2000年代初頭の欧米の資産バブルをなぜ予測できなかったか、実務界の状況
第 4 回	リーマン・ショックによる世界経済危機の勃発をなぜ予測できなかったか、実務界の状況
第 5 回	グローバル化の揺り戻しでトランプ政権の誕生
第 6 回	トランプ登場は、世界経済の政治的トリレンマ
第 7 回	トランプ政権でアメリカはどうなるのだろうか
第 8 回	E U の統合、どうしてユーロを導入できたのか
第 9 回	ヨーロッパにおける極右台頭の状況
第 10 回	ヨーロッパにおける極右台頭の背景
第 11 回	イギリスのE U 離脱問題をどう見るかーこの予測はなぜ難しいか
第 12 回	ドイツの社会的市場経済とアメリカ市場原理主義の違い
第 13 回	ドイツは戦争責任をしっかりとらしているか
第 14 回	ヨーロッパの中のドイツとヨーロッパのドイツ
第 15 回	日本とドイツの経済比較してみると見えるもの
第 16 回	期末試験

到達目標

欧米の戦後の経済発展を理解したうえで、ドル体制の変遷、ユーロ導入のプロセス、ユーロ対ドルの対抗について理解してもらうことを到達目標とします。とくにトランプ政権誕生の歴史的評価を理解してください。

さらに、2008年の欧米における資産バブルについて、民間シンクタンクがなぜ予測できなかったかということについて詳しく講義します。

履修上の注意

現実の欧米経済について講義しますので、新聞などをよく読んでください。30分以上の遅刻は欠席とし、30分以内の遅刻二回で欠席一回とします。

予習復習

講義の予習・復習をしてください。そうしないと、講義の内容がわからなくなることもありますので、注意してください。

評価方法

中間試験(30%)と期末試験(70%)によって総合的に評価します。

テキスト

- ・教科書名：『よみがえる日本、帝国化するドイツ』
- ・著者名：相沢 幸悦
- ・出版社名：水曜社
- ・出版年：2015年